

自然の脅威「大雨」による災害に備えて

平成30年7月豪雨は、河川の氾濫などによる浸水被害や山腹崩壊、土砂災害などが重なり、未曾有の大災害となりました。大雨による災害の被害を最小限に抑えるためには、日頃の備えや避難行動の確認が大切です。あらためて防災について考えましょう。

☎防災復興推進課(21)0246

自分の命は自分で守る

大雨は事前に予測ができるため、早めの避難行動が可能です。しかし、浸水が始まると水深が浅くても足をすくわれ、側溝などに転落する恐れがあり、特に夜間は注意が必要です。屋外への避難が危険なときは、自宅の2階以上の部屋や山の近くでは山と反対側の部屋へ移動するなど、臨機応変に行動しましょう。

事前準備

避難場所や避難ルートを確認

自宅や勤務先、通学先での避難場所を確認しておきましょう。また、避難経路を複数考えておきましょう。

連絡方法を決めておく

災害用伝言ダイヤル(☎177)や災害用伝言板(パソコン・携帯電話)などが災害時の連絡手段として有効です。いざというときの連絡方法をあらかじめ家族などで決めておきましょう。

災害が発生したとき

まずは身の安全を確保し、避難したら戻らない

災害が発生したときは持出品の準備に時間を割かず、一刻も早く避難しましょう。また、避難場所から自宅へ戻ることは大変危険です。避難後は絶対に戻らないようにしましょう。

大雨による災害対策の第一歩は情報収集から

災害の怖さや防災への意識が薄れないよう、事前にあらゆる備えをしておくことが大切です。自分の命を自分で守るために、防災・減災の知識を増やしましょう。また、災害発生時にはテレビ、防災ラジオ、パソコン、携帯電話などで最新情報を入手するようにしましょう。
※防災ラジオは有効な情報収集媒体の1つです。貸与申請がまだの人は手続きをお願いします。

おかやま防災ポータル

配信される情報

気象情報…1時間雨量の情報や動画による6時間後までの降水予想、警報や注意報の発令状況など

観測情報…高梁川や成羽川の水位状況、ダムの放流状況、市内の雨量観測点の状況など

おかやま防災ポータル URL…<http://www.bousai.pref.okayama.jp/bousai/>

高梁市メール配信サービス

気象情報や市が提供する避難指示などの防災情報を入手できます。このシステムを利用するには登録が必要です。

登録用メールアドレス…e-takahashi@xpressmail.jp

避難情報について

気象情報や市が発表する避難情報などの防災情報を入手し、どこに避難するかを判断しましょう。「災害に遭わない」「安全な場所に居る」と思い込まず、避難情報などに注意して速やかに行動しましょう。

避難情報の種類

避難準備・高齢者等避難開始	災害発生が予想されるときに避難の準備を呼びかけ、避難に時間がかかる高齢者、体が不自由な人、小さな子どもがいる人、その避難を支援する人に避難行動が必要なときに発令
避難勧告	災害が発生する可能性が高く、多くの人が避難行動をする必要があるときに発令
避難指示(緊急)	災害が発生している、または災害が発生する危険性が非常に高く、早急に身を守る行動が必要ときに発令



おかやま防災ポータル



高梁市メール配信サービス

土砂災害は突発的に発生

土砂災害の種類と前兆現象を理解しておきましょう。県は、土砂災害警戒情報を補足する「土砂災害危険度情報」を提供しています。

岡山県土砂災害危険度情報 URL…<http://www.d-keikai.bousai.pref.okayama.jp>

土砂災害の種類と前兆現象

崖崩れ	○崖からの水が濁る ○崖から水が湧きだしてくる ○崖の上から小石が落ちてくる ○崖に割れ目や裂け目が生じている
地すべり	○ため池、用水路、井戸水の急激な減水 ○傾斜地に段差や亀裂が生じている ○局部的な沈下、隆起、亀裂の発生
土石流・鉄砲水	○木立が裂けたり石などが流れたりする音が聞こえる ○溪流付近で落石や斜面の崩壊が発生 ○雨が降り続けているのに川の水位が急激に減少 ○川の水が急に濁り流木などが交ざる



土砂災害危険度情報

浸水エリアマップを活用しましょう

平成30年7月豪雨災害による被災家屋の浸水調査を基に浸水した地域を示したマップを、広報たかはし5月号と一緒に配布しています。今後の水害に備えるための資料として活用しましょう。

大規模水害対策訓練

平成30年7月豪雨災害を教訓に市内5カ所で行った訓練を実施します。詳しくは16ページをご覧ください。



防災訓練の様子(中井町)

自主防災組織の結成を
大規模災害の直後は交通網や通信網などのライフラインが混乱し、行政による救出や支援が行き届かない場合があります。その際は地域による支え合いが大事となります。
平成30年7月豪雨災害時には、地域による1人暮らし世帯などへの水の配布や給水応援、要支援者の安否確認などにより救われた人も多く、地域による自主防災が大きな役割を果たしました。
大規模災害を乗り越えるためにも、各地域などで自主防災組織を結成し、「自分たちのまちは自分で守る」という心構えで日頃から災害に備えましょう。

避難時に必要なもの



大雨などの避難時に必要な荷物を事前に用意しておきましょう。
飲料水 1人1日3リットルを目安に3日分
非常食 ごはん・アルファ米などの備蓄用米、ビスケット、板チョコ、乾パンなどを3日分
衣類 防寒着、下着、雨具
衛生用品 簡易トイレ、タオル、生理用品、マスクなど
医薬品 救急セット、常備薬、服用中の薬など
日用品 懐中電灯、電池、マッチ、ろうそく、軍手、はさみ、トイレットペーパー、眼鏡・コンタクトレンズ、携帯ラジオ、携帯電話の充電器など
貴重品 現金、預金通帳、印鑑、携帯電話、免許証など
便利なもの ビニール袋・ゴミ袋、ラップ、新聞紙、ウェットティッシュなど